

日々の祈り

2021年7月19日(月)~24日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・兄弟姉妹の信仰の歩みが主によって支えられ、また健康や日々の生活が守られるように。
- ・コロナウイルスや災害によって、苦しみ、悲しみにある人々のために。
- ・迫害や困難の中にある信仰の兄弟姉妹のために。

19日(月)

ルカによる福音書 15章 31~32節

すると、父親は言った。『子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。』

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。父なる神さまと共に生きる恵みにあずかっているが、それを喜ばず、自分の行いに対する報いを求めているならば、それは神さまから離れていると同じことです。父なる神さまがいつも一緒にいて下さる恵み。いつも養い、守り、愛の交わりの中に置いて下さっている恵み。その大いなる恵みに、今一度わたしたちは目を向けたいと思います。

20日(火)

ヨハネの黙示録 21章 3~4節

そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のもものは過ぎ去ったからである。」

「神が人と共に住み」とあります。黙示録の、終わりの日の預言です。しかし、イエスさまの救いを信じた者においては、この恵みは先取りされ、すでに始められています。イエスさまと一つに結ばれたわたしたちは、今この時も神さまが共にいて下さることを知っているのです。この恵みのうちに、神さまのご支配が、天にも地にも満ちる日を、心から待ち望むのです。

21日(水)

ホセア書 6章 6節

わたしが喜ぶのは／愛であっていけにえではなく／神を知ることであって／焼き尽くす献げ物ではない。

神さまは、わたしたちの愛を喜ばれます。神さまは、わたしたちが神さまを知ること、わたしたちが神さまと親しい関係を築き、共に歩むことを喜ばれます。わたしたちが何かを成し遂げることや、差し出すことを望んでおられるではありません。共にいて下さる神さまの御許で、わたしたちも愛をささげ、神さまと共にあることを喜ぶこと。ここに恵みがあり、救いがあり、喜びがあります。

22日(木)

詩編 24編 1～2節

地とそこに満ちるもの／世界とそこに住むものは、主のもの。主は、大海の上に地の基を置き／潮の流れの上に世界を築かれた。

神さまが天と、地と、すべてのものの造り主であること、すべては主のものであることを覚えましょう。わたしたちは、手にしているものを自分のものと思い込んでしまいます。そして、無駄遣いをしたり、放って置いたり、それに依り頼んだりします。自分の命さえ、自分のものではないのに、自分の好きにして良いと考えています。本来の持ち主である神さまが、どれだけ一つ一つを大切にしておられ、どう用いられることを望まれ、どうなることを喜ばれるか。わたしたちはいつも御心を祈り求めていく必要があります。

23日(金)

歴代誌上 29章 12節

富と栄光は御前にあり、あなたは万物を支配しておられる。勢いと力は御手の中にあり、またその御手をもっていかなるものでも大いなる者、力ある者となさることができる。

次の主日礼拝の御言葉です。わたしたちが持っている富も、わたしたちを生かす日々の糧も、能力も、時間も、あらゆるものは万物を支配しておられる神さまから与えられたものです。わたしたちは、すべてを神さまの御手から受け取り、あずかっているに過ぎません。神さまは、それらをわたしたちが御心に適ったことに用いることを望まれて、一人一人の手に多くのものを託して下さっているのです。今日も与えられたこの富を、わたしたちはどう用いれば、神さまに喜んでいただけるのでしょうか。

24日(土)

ルカによる福音書 16章 13節

どんな召し使いも二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。

明日の主日礼拝の御言葉です。富をどう用いるか。わたしたちにとって難しい問題です。しかし、根本的に、どのようなこともすべて、神さまにあって考えるべきです。神さまから与えられたものを、神さまに喜んでいただくために用いること。わたしたちが、まず神さまに仕えることに忠実であることを、イエスさまは望んでおられるのです。